

# アオドウガネ 前脛節の畸型

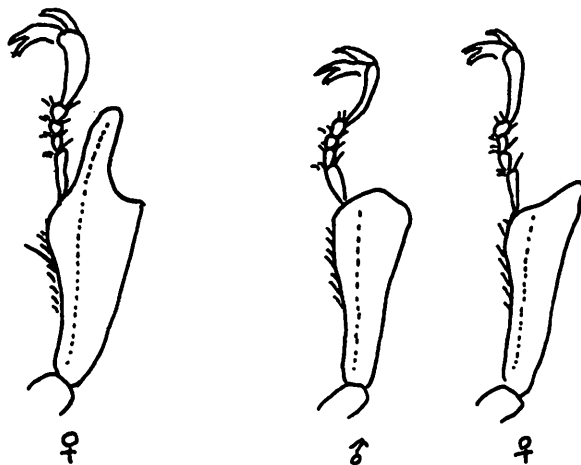
( 兵庫県甲虫相資料・233 )

高橋 寿郎

1989年7月に神戸市須磨区緑町地下鉄神戸総合運動公園駅の電燈に来ていたアオドウガネ *Anomala albopilosa* Hope を、山下剛史氏が採集されたものを蜂谷幸雄氏の手を経て御恵与頂いた。データは次のようである。1♀, 12-VII-1989. 2♂, 3♀, 16-VII-1989, 1♀, 1♂, 20-VII-1989.

初め頂いた時、アオドウガネにしてはやや小型で翅鞘の色が茶色味を帯び一寸と変わった印象を受けるものが数頭いた。余り気にもかけず暫くして整理して同じアオドウガネの所に入れようとしてその内の1♂1♀(20-VII-1989)の前脛節が変だと云うことに気がついた。所謂前脛節の外歯と云うものがこの2頭には全く無い(1頭は右前脛節はなくて左前脛節は通常の外歯がある)。採集者山下氏は蝶が好きで、甲虫の採集は単に無作為に目についたものを採集して下さる方である。それにしても頂いた3♂5♀の中に1♂1♀の畸型が出てくると云うのは大変高率である。筆者所有の各地産200頭近くのアオドウガネの中にはこんな畸型は見られなかった。

既に他に記録されているものかもしれないが多数の文献を調べる根気も今無い。貧弱な筆者の知識ではこの様な報告があったのを知らない。何はともあれ畸型であり特にどうと云うことではないが、採集されたものに比して2頭も出ていること、色彩も若干異なる様なもの気にかかる。最近県下の鳩とか猿の手、足の畸型の発生が多いとか、何か我々の知らない異常影響から出てくるのではないかと



正常なアオドウガネ  
右前脛節

畸型  
右前脛節

いらぬ考え方をしたりして此処にその状況を報告しておいたらとまとめて見た。図にかいた様な畸型で♂♀の判別は腹部を開いて交尾器を剔出した。♂交尾器の形状は他のアオドウガネと異なった所は見られない。♂の方は両前脛節とも外歯と云ったものが無いが、♀の方は左前脛節は通常の外歯をもっていて右だけが図の様になっているものである。この採集地点はいわゆる西神地域に至る途中で、このあたりから西は最近急速に開発がされている地域で自然を残そうと云った配慮もあったりするが、虫が住宅に多くやって来て困ると云った住民の苦情が殺到している地域で、無理な殺虫剤、除草剤あたりを散布している恐れは充分であり、不自然と云うか環境破壊はかなりのものであり、あるいは虫達にもその影響が現れて来るのではと勝手な穿索をして見たくなる次第である。

蛇足ではあるが戦前アオドウガネは神戸市内ではほとんど採集したことが無かったが、戦後特にここ10年位前からいやに多いなあと云う印象を受けるコガネムシである。

(SEP. 1989)

## 県関係文献紹介

- 三木市立三木中学校生物部採集報告書。 三木中学校生物部平成元年3月24日刊。35p。  
主として甲虫類の三木市を中心にした記録である（一部赤西溪谷あたりの記録もふくまれている）。可成り珍しい種の記録もある。ただ全体を統一した出版物にして頂けたらと思われる。東川直樹氏の“美濃川に生息する蛭舘目の調査”はワープロで打ってあり（他は手書き）、内容も立派なものであるばかりでなく仕上りも大変きれいだ。ただ全部にページは入れてほしい。今後継続しての出版を希望する。（本書は西田雅昭氏から御恵送頂いたものである）。
- 山口福男 ムシの世界（1-21）。 山陽ニュース № 456-475（1988-1989）  
“山陽ニュース”1988年1月号より上記標題の下に毎号テーマを決めて連載されている（連載は継続中。21が1989年9月号）。例えば18は“ホテル”に就いてである。読物風にまとめられてどれも楽しく読める（山口福男氏からは1-12迄のコピーと15を御恵与頂いてこのシリーズを承知した。その後山陽電気鉄道 K. K. の方に依頼して毎号送って貰っている）。御恵与頂いた山口福男氏に厚く御礼申しあげる。
- 神戸市刊 新修 神戸市史 歴史編 I, 自然・孝古。A5判 770p。  
神戸市制百周年記念事業として上記第1巻が1989年6月9日市販された（年間1-2巻ずつ刊